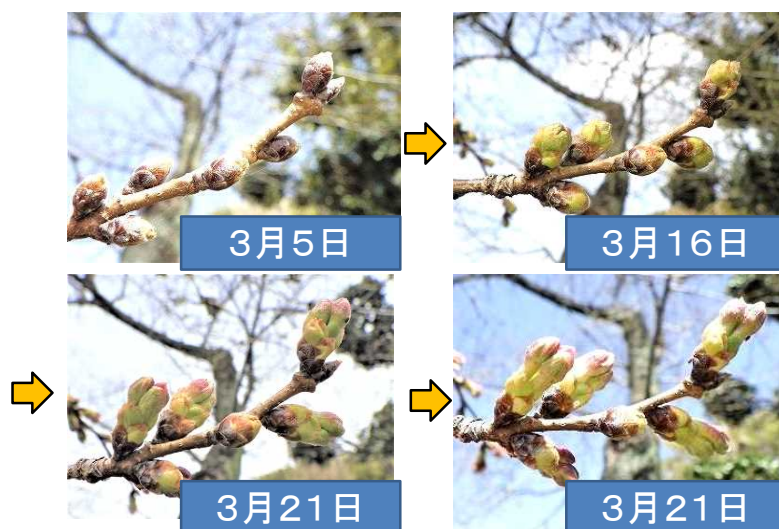


皆さん、おはようございます。

令和3年度も、今日で修業式を迎えることとなりました。春休みを前に、まん延防止特別措置期間が終了したことは、正直ほっとしています。

校庭の桜は、3月になってから、少しずつ、つぼみが膨らんできました。

校庭の桜の開花(ソメイヨシノ)



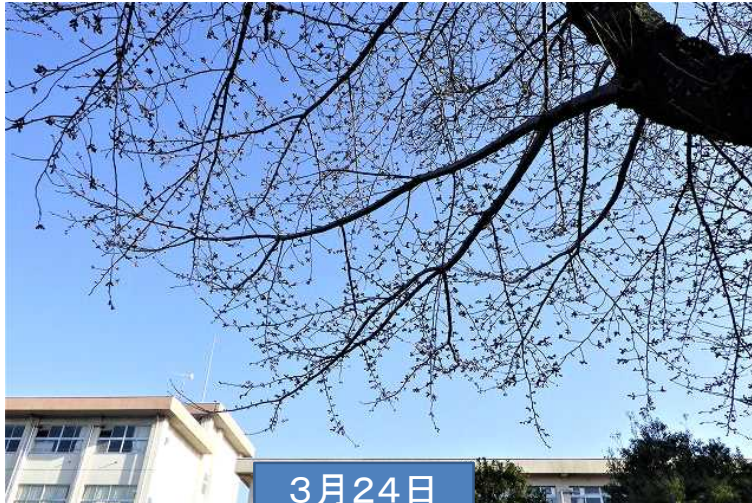
これが、今日の朝撮った写真です。ご覧の通り、まだ開花していません。

校庭の桜の開花(ソメイヨシノ)



昨年度の修業式は、校庭の桜が満開でしたので、去年より、2週間くらい遅れています。おそらく開花は今週末、4月上旬に満開となりますので、始業式の頃には、十分、桜を楽しむことができそうです。

校庭の桜の開花(ソメイヨシノ)



しかし、近くの里山では、ウグイスの鳴き声が聞こえるようになってきました。コロナ禍という人間社会の混乱をよそに、自然界はしっかりと時を刻んでいることを感じました。

さて、本校では、3月1日には高校3年生、16日には中学3年生の卒業式が行われました。今年度は、オンラインで生徒の皆さんの見守る中、厳粛な雰囲気の中、素晴らしい卒業式となり、卒業生を温かく送り出すことができました。中高それぞれの卒業生の答辞の中で、共通していた内容は、コロナ禍で過ごした思い出でした。



高校卒業式



中学卒業式



特に、旭城大運動会、旭城祭、マラソン・ウォーキング大会、といった中高合同の行事を成功させることが出来たことが、大きな自信や誇りとなっていたことを改めて感じました。皆さんも1年後、或いは2年後の卒業式で、「心から感動できるものを経験できた3年間だった」そう思うことができるよう、これからを過ごしてほしいと思います。



ところで、今年度の4月に行われた始業式の式辞では、皆さんにこのようなことを伝えました。「コロナの影響で、様々な制限が加わってくる可能性はあるかもしれないが、その中でも、一人一人が、あるいは学年が、そして学校がチャレンジできることは必ずある。それぞれが、チャレンジをしよう」ということでした。

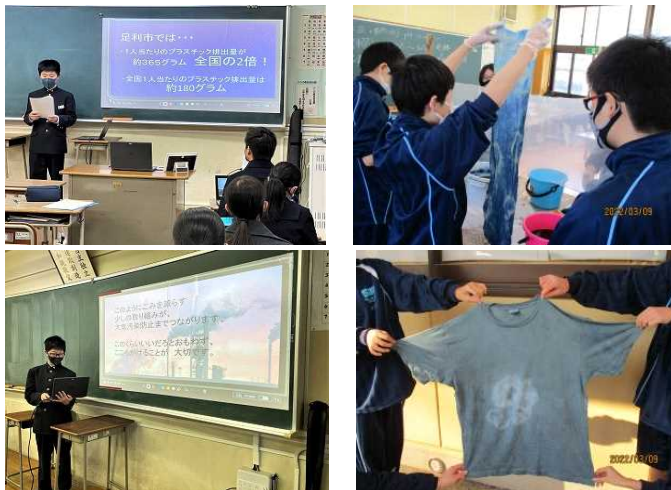
今年度の目標

「コロナ禍ではあっても、
一人一人が、学年が、学校が、
チャレンジできることは必ずある。
それぞれが、**チャレンジ**しよう！」

本日の修業式では、この1年間で、皆さんがどれだけチャレンジし、成長したかを振り返ってみたいと思います。

まず、中高の各学年で見ると、中1では藍プロジェクトやSDGs研究などを1年間かけて取り組み、お互いに刺激し合いながら成長することができました。2日前の22日に実施した総合的な学習の時間での最終発表会では、オンラインで保護者に配信し、この1年間で成長した姿を見せることが出来ました。とても立派だったと思います。1年生にとっては、毎日がチャレンジの連続だったと思います。

中学1年



中2では、マイチャレンジに代わる取組として、2学期から、オンラインによる「企業インターンシップ」にチャレンジしました。

中学2年



2学期から取り組み、一人一人にとって、たくさんの気づきがあり、研究を通して、大きく視野が広がりました。代表班が全国大会に出場するなど、学年全体の研究の質が高かったことも証明されました。昨日行われた立志式も感動的で、一人一人が成長し、自主自立の心構えができてきたことを感じました。また、学校全体に呼びかけた「服のチカラプロジェクト」は3000枚を超える服が集まり、服を必要としている方々に確実に届いている、という連絡がありました。

(以下、加筆)

メディア等でアフリカに寄付した衣料品が大量破棄されている、という報道を目にしましたので、学年の担当者から事務局に問い合わせをしてもらいました。この問い合わせに対して、以下のような回答がありましたので、紹介します。

『このプロジェクトは、避難生活を余儀なくされている難民や国内避難民など、「様々な制約により必要な衣類を手に入れられない状況にある人々」を支援するために、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）などと連携し、現地の服のニーズを確認し、確実に届けています。

具体的には、現地の服のマーケットなどを介さず、UNHCRなどから支援に必要な数量とカテゴリーの連絡を受けて、難民キャンプなど、必要な場所まで直接届けています。また、現地到着後は、UNHCRが難民キャンプ内などで、服を必要としている人に配付を行っており、当社従業員が現地を訪れて、直接配付することもあります。

以上のように、支援者の皆様の善意を、必要としている方々に届けられる仕組みを整えていますので、安心していただけるよう、お伝えいただけると幸いです。』

という回答がありました。

卒業した中3生も、シンカゼミの発表やオンラインでのイングリッシュキャンプなどを通して、3年間の成長の跡を見せてくれました。

中学3年



続いて、高校生についてですが、
高1では、教科の学習はもとより、自分たちが取り組んだ課題研究を、ポスターや論文にまとめることで、高校での探究活動の基礎固めがしっかりできたことを感じました。このことを通して身に付けた力は、大学入試だけでなく、社会に出てからも必要となる力です。皆さんは、当たり前のようにやってのけましたが、これだけのことをやれた高校1年生はそうはいないと思います。おおいに自信を持ってほしいと思います。

高校1年



高2については、お互いに励まし合いながら、落ち着いた学校生活を送る中で、それぞれが、いろいろなことに果敢にチャレンジしてくれたことが印象に残っています。自分で今、何をすべきかを考え、そのために必要な行動ができるようになったことも成長の証です。第3の制服の導入についても、リーダーシップを発揮してくれました。

高校2年



卒業した高3生については、進路実績でも大きな成果を残してくれました。前年度、修学旅行が最終的に中止となってしまった時、誰一人泣き言を言わず、前向きに学校生活に向き合っていた姿を、忘れることはできません。先輩たちの頑張りが、進路実現という形で報われたことは本当に良かったと思っています。

高校3年



(今年度の大学入試合格者数の一覧を見る在校生たち))

中高の各学年とも、今、自分たちにできる最高のチャレンジをしてくれたことを嬉しく思っています。

続いて、部活動やクラブ活動などについても、この1年間をふり返ってみたいと思います。ここでも、多くのチャレンジが私たちを元気づけてくれました。

まずは、中学生の活躍についてです。

英語ディベートの全国大会で、4位に入賞したことは、特筆すべきことだと思います。これまで、高校生の英語ディベートの活躍がクローズアップされてきましたが、附属中生も全国レベルの実力を持っていることが証明されました。

また、日本語ディベートでも関東甲信越大会で、初の4位入賞を果たしました。

囲碁将棋部では、囲碁の全国大会で中3の長崎航輝君がベスト16、将棋の全国大会で中2の石原橙真君がベスト8と、全国でも大活躍しました。

「科学の甲子園ジュニア」では、本校生チームが、県で初優勝し、全国大会に出場しました。本校始まって以来の快挙でもあります。

部活動やクラブ活動(中学)



ラグビー部では、東日本の大会の女子の部に栃木県や関東の合同チームの一員として出場しました。

硬式テニス部は、8年連続で関東大会に出場を果たしました。当たり前のように勝ち続けることは並大抵のことではありません。健闘を称えます。

特設水泳は佐野市で男子総合優勝、女子総合優勝し、全員が県大会に出場、関東大会でも入賞するなどの快挙を達成しました。

また、陸上競技部、男子バスケットボール部、男子卓球部、サッカーも県大会に出場するなど、大活躍を見せてくれました。

部活動やクラブ活動(中学)



ラグビー(合同チーム)



特設水泳



硬式テニス



陸上

部活動やクラブ活動(中学)



男子卓球



男子バスケットボール



サッカー(佐付中FC)

高校では、囲碁将棋部の将棋の団体戦で、和歌山県での全国総文祭に出場し、全国ベスト16という素晴らしい成績を収めました。

また、科学部も全国総文祭に出場し、りっぱな発表をしてきました。なお、科学部は12月に行われた県大会で優勝し、来年度も総文祭に参加することが決定しています。

また、ボート部は、6月に神奈川県相模湖漕艇場で行われた関東大会で4位入賞となりました。関東大会での女子入賞は、創部以来初の快挙です。

陸上競技部は、男子4×100mリレー、男子200m、女子三段跳び、女子棒高跳びで、関東大会への出場を果たしました。

部活動やクラブ活動(高校)



囲碁将棋



ボート



科学



陸上

水泳部も全員での関東大会出場を目指し、個人種目で2名が達成する事ができました。

また、県大会でも特筆すべき活躍を見せてくれた部活動がたくさんある。

男子バスケットボール部は、インターハイ県予選で18年ぶりとなるベスト8を達成しました。

ラグビー部は、全国大会県予選の準決勝で、國學院栃木と対戦し、敗れましたが、全国で準優勝したチームから、2トライを奪う大健闘を見せてくれました。

部活動やクラブ活動(高校)



水泳



ラグビー



バスケットボール



また、SGクラブでは、2年連続で、模擬国連への出場を果たしました。
英語ディベート班は、県の春季大会で準優勝するなど、ディベート王国である栃木県の高校の中で、力を発揮し続けています。

同様に、SGクラブ研究班は、今年度もマレーシアの高校生たちと長期間にわたり、オンラインで協働研究を進めてきました。それ以外にも、全国高校生SRサミットや日本地理学会、ざぶん大賞などで発表し、高い評価をいただいています。

中高による吹奏楽部の定期演奏会でも、チャレンジがありました。今回はHPからユーチューブ動画を配信し、約3000回を超える再生回数を記録しました。定期演奏会に来られなかった観客にも感動を伝えてくれました。

部活動やクラブ活動(高校)



模擬国連



SGクラブ研究班



SGクラブディベート班



吹奏楽(中高)

この場では、すべてを紹介することはできませんでしたが、コロナ禍という状況の中で、果敢にチャレンジし、行動をおこすことで、素晴らしい成果をあげました。また、そのことを通して、皆さんの成長を確認する事ができました。



大会に出場できる選手、全体で発表できる生徒は一部だけだったかもしれませんが、一つの大きな目標に向かって、皆さんが、高め合う集団になっていたからこそ、到達できた高みであったと感じています。

こうした高め合う集団が、生徒自らの手によって作られ、行動できたことは、本当に嬉しく思うと同時に、そうした皆さんを誇りに思っています。

以上、皆さんのこの1年間のチャレンジと頑張りを振り返ってきました。

さて、本校は、昨年度、国から5年間の指定を受けていたSGHが終了し、今年度は、新たに「Sano グローカル構想」がスタートした年でもあります。「Sano グローカル構想」では、「探究力」と「人間力」を育成する事を目標にしています。



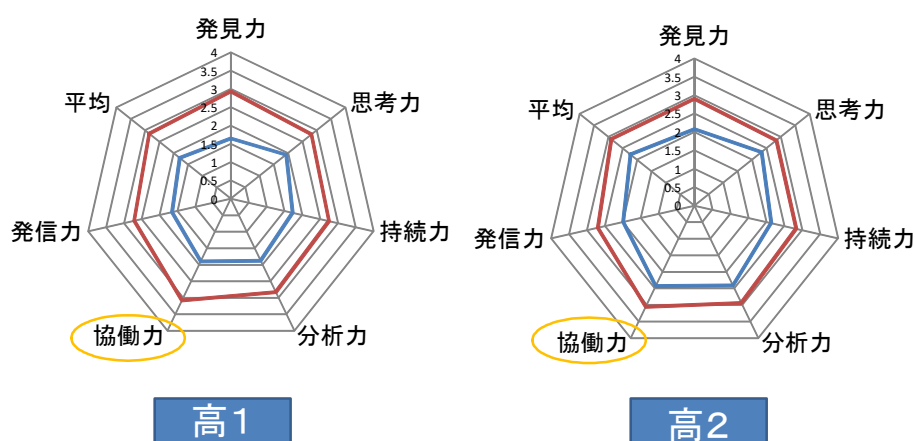
「探究力」には、それを支える力として、「発見力」「思考力」「持続力」「分析力」「協働力」「発進力」の6つの力、

「人間力」には、同様に、それを支える力として、「適応力」「判断力」「挑戦力」「肯定力」「自律力」「行動力」の6つの力を設定しています。

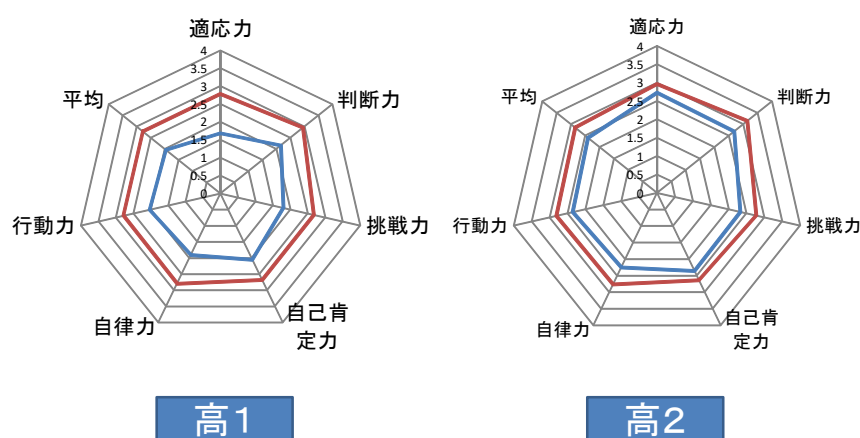
それでは、この1年間で、「探究力」や「人間力」は、どの程度、身についたのでしょうか。

今年度、高校1、2年生を対象に実施したルーブリック調査（アンケート形式）の結果を最後に紹介します。調査では、それぞれに力について、どんなことができるようになったか、を4段階の中から、自分に当てはまるものを選んでもらいました。最高レベルが4ということになります。以下のグラフの青い線は昨年4月に実施した調査結果、赤い線が今年3月に実施した結果です。

「探究力」の推移



「人間力」の推移



両学年とも、この1年間で、「探究力」、「人間力」、ともに自己評価の値がすべて上がっていることに注目してください。

春休みに向けて

- ①基本的な感染防止対策の徹底
「会話するときはマスクする」
- ②世界の動き、世の中の動きをよく見て、考える。
- ③新学期から、明るく、元気に、一生懸命に
学校生活を送ろう。

さて、明日からは春休みとなります。コロナに始まり、コロナで終わる1年間でしたが、コロナウイルスと人類との戦いは、まだまだ終わる気配はありません。春休みとは言っても、これまで通りの基本的な感染対策の徹底をお願いします。特に、「会話するときはマスクをする」ことは、最低限守ってください。万全の状態で新年度を迎えられるよう、お互いに気をつけましょう。

また、世界は今、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻など、試練の時を迎えています。困難な問題ですが、私たちも避けて通る事はできません。世界的なピンチを人類がどう乗り越えていくことができるのか、世界の動き、世の中の動きをよく見、考えて欲しいと思います。

先ほど、高校生徒会副会長の亀田君から、ウクライナでの避難民等への募金について報告（64000円の協力がありました）がありましたが、これも立派な行動の一つだと思います。

皆さんが、また4月から、明るく、元気で、一生懸命に、学校生活を送ってくれることを大いに期待して校長からの式辞とします。